

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3610510087
法人名	医療法人 藤野会
事業所名	グループホーム 成田
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2573-1 (電話)0883-52-1710

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 11日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤11人, 非常勤 1人, 常勤換算 凜ユニット5.5人, 藍ユニット5.9人	

### (2)建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	消耗・日用品6,000円, その他実費	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.39 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 藤野会 成田病院
---------	---------------

徳島県 グループホーム成田 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道から少し中に入った住宅地の一角に位置し、玄関を出ると田畑があり、散歩時には地域住民の方からよく声をかけてもらったりしている。また、利用者が一人で近くの店へ出かけて行ってもホームに連絡がある等、地域住民と馴染みの関係となっている。利用者一人ひとりが思いのままの生活を営み、職員が温かく見守り、利用者と共に生活している和やかさがみられた。個々の出番や持てる力を引き出して生き甲斐づくりに繋げる工夫がなされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で地域との双方向の関係作りが改善課題であったが、中学生・高校生の職場体験学習の受け入れや農家の人から野菜や果物が提供されるまでの関係作りができてきた。しかし、地域の方が気軽にホームへ訪問できるよう、引き続き情報等の提供や地域行事への積極的な参加、働きかけ等の工夫が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義について再度学習を行い、職員全員の日頃の気づきや意見等をアンケートに出し、それらを話し合い自己評価に繋げていく取り組みがなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2~3ヶ月に1回開催されている。家族、地域住民(地区民生委員)、近隣施設、市職員等の参加のもと、グループホームの役割や現状報告、前回話し合った結果の経過報告の他、自己評価への取り組みも報告されている。地域へのいっそうの関係づくりに対する委員からの情報提供や協力についても話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的にホーム便りを発行し家族等に送付している。家族の面会時には利用者の健康状態や暮らしぶりを写真と共にくわしく説明している。相談・苦情について何でも話してほしい事を機会あるごとに伝え、意見箱の設置や外部の公的相談窓口を重要事項説明書に明記し説明をしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事やお祭り、近隣施設の文化祭等の催しに利用者や時には家族と一緒に出かけ交流を深めている。近所への散歩や買い物時には挨拶や会話を積極的に行い、近所付き合いができてきた。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの意義を確認するとともに、地域の人々との交流や関わり、利用者の尊厳を大切にした事業所独自の運営理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はホーム独自の理念について、ミーティングの機会に確認を行い、日々の利用者との関わりの中に理念を反映させる取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣施設の文化祭や地域のお祭りには、利用者や家族と一緒に参加したり、散歩等で挨拶や会話を積極的にするうち、良い関係ができています。季節の果物や野菜をもらうこともある。また、高校生や中学生の職場体験学習の受け入れ、地域の方達の事業所への訪問依頼、清掃活動等地域の行事には必ず声をかけてもらうようにしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員全員で話し合い自己評価に取り組んでいる。また、外部評価結果についてはミーティングで報告し、改善につなげる話し合いと実践に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月に1回、家族・地域住民(地区民生委員)・近隣施設・市職員等の参加のもと前回の経過報告と利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況、全職員の日頃の気づきなどを報告している。委員からは意見や地域の行事、風習等の情報も戴きサービスの向上に繋げているが、職員全員の会議録への確認印が不十分である。	○	2ヶ月に1回開催されたい。運営推進会議の会議録は全職員に回覧し、確認印かサインが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市担当窓口を折に触れ訪問し、事業所の実状や取り組みを伝え協力関係構築に向けた働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	電話・訪問等家族が希望される方法で利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。日頃の行事や生活状況を写した写真も多く掲示しており、面会時には利用者の日頃の様子があがえ喜ばれている。金銭管理については出納記録に記帳し家族に示しているが、確認印が不十分である。	○	出納記録は家族に示され確認を得ているが、確認したことがわかる確認印かサインが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族面談で何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、出された意見や要望はミーティング等で話し合いサービスの質の向上に繋げている。また、直接言いにくい場合は意見箱の設置や行政等外部の苦情相談窓口が有ることを説明し、重要事項説明書にも明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援を行っているが、どうしても交代しなければならない時は早めに利用者、家族に紹介し、ダメージを少なくするよう職員全員で配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修会に交代で参加し、月1回開催される勉強会で報告と話し合いが行われている。研修会の内容はいつでも閲覧できるようにしているが、共有できたことわかる確認印が不十分である。	○	職員全員が共有できたことわかる確認印かサインが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、管理者は近隣の同業者と電話等で情報の交換を行いサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事前に見学をしてもらったり、利用者と一緒に3時のお茶を飲んだり、1～2時間一緒に過ごしたり、体験入居等、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人・家族と相談しながらサービス利用に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お団子づくり、梅干し、漬け物の塩や酢の割合等、人生の先輩である利用者に教えてもらう場面を多く持つように工夫し、共に支えあう関係作りを築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝起きて自分で服を選んで着る人、夜セッティングしておけば着れる人、何をしても良いかわからない、思いを出せない方も含め、日々の関わりの中で思いや希望、意向の把握に努め、利用者本意に検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、その他必要な関係者から、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画の作成に活かしている。しかし、利用者、家族の同意の印が不十分である。	○	介護計画に、利用者、家族の同意の確認印かサインをされたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しがされている。申し送りノート等により状態が変化した際は柔軟に状況にあった計画変更を行っている。しかし、見直された介護計画への利用者、家族の確認印が不十分である。	○	見直された介護計画への利用者、家族等の同意の確認印かサインをされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者、家族と話し合いながら、通院の支援や往診、また予防的なりハビリ等、利用者や家族の日々変化する状況や要望に応じて柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。特定の疾患や遠くの医療機関、大学病院への通院は基本的に家族同行で受診となっているが、不可能な時や近隣の医療機関への受診は家族等と相談のうえ職員が代行しており、利用契約時にその旨を説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については機会があるたびに家族や利用者や話し合い、かかりつけ医や関係医療機関との連携と協力を得て方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年2回、法人で個人情報保護法やプライバシーの確保について勉強会を行い職員はできるだけ参加するようにしている。特にプライバシーの確保については日々の対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中に、一人ひとりの体調に配慮しながらペースを大切に支援を行っている。昼食後パジャマに着替え居室で休む人、散歩に出かける人、お風呂に入る人等思い思いに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を運ぶ、配膳を手伝う、テーブルを拭く等、一人ひとりの力量を活かしながら利用者と共に準備や片付けを行い、職員と利用者が同じテーブルで季節の食材を使った食事を楽しんでいる。遅くても急がさず最後まで自分で食べられるような優しい支援がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は昼間に限られているが希望によりいつでも入浴することができるようになっている。健康状態や精神状態によりシャワー、清拭、足浴などを行い対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日常生活の中で利用者一人ひとりの出番や持てる力を見い出し、お茶出し、配膳の手伝い、洗濯物たたみ、梅干しや干し柿作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作り、それぞれの役割を生き甲斐に繋げる支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見や行事、地域や施設のお祭りの他、散歩や買い物など、車イスの方も含めて外に出かける機会を多く設けている。近所のコンビニなどは行けばドアをあけて待ってくれたり買い物を手伝ってくれる程顔なじみの関係もできてきている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どうしても人出の足りない時間帯にはその旨を表示して鍵をかけているが、その他は安全面に配慮しながら自由に出入りできるようにしている。職員は鍵をかけることの弊害をよく理解し、利用者の見守りを徹底し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣の法人母体と一緒に年2回、昼夜両方を想定して避難訓練を行っており、地域の町内会の協力体制も得られるようになっている。また、朝のミーティングで避難経路、消火器の設置場所や使用方法を確認して、非常時にすぐ対応できる体制が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。また、おおまかに栄養摂取量を把握し定期的に隣接施設の管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。水分は利用者の居室にお水やお茶を入れた水筒等が置かれ、欲しい時にいつでも飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファ、机、イス等が適度に置かれ、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりがされている。机の上には庭に咲いていた菊の花が手作りの花瓶に生けられ、壁のクリスマスの飾り、庭先には利用者が作った干し柿もあり、季節の食材等季節感や生活感を程良く採り入れた温かな共有空間作りに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具、生活用品、装飾用品等思い入れのある物品が持ち込まれ、それらが活かされ思い思いに居心地よく過ごせる居室づくりがされている。		